

対象校No. 716
注4

学校コード F123310106568
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の設置
注1

認可

注2
金城学院大学 看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人 金城学院
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	大学運営推進課
職名・氏名	カチョウ オキタ マキト 課長・置田 牧人
電話番号	052-798-0180
(夜間)	同上
e-mail	d-suisin@kinjo-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人金城学院

(2) 大学名

金城学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒463-8521

愛知県名古屋市守山区大森2-1723

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	トガリ ハジメ 戸苅 創 平成28年1月4日		
学長	コムロ ナオコ 小室 尚子 令和2年4月1日		
学部長	イチカワ セイイチ 市川 誠一 令和4年4月1日		
学科主任	マツウラ リエコ 松浦 利江子 令和4年4月1日		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに入力してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学生定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	100 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	400 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	100 () []	人 () []	100 () []	人 () []	人 () []	100 () []									
志願者数	() []	781 () []	() []	555 () []	() []	() []	457 () []									
受験者数	() []	750 () []	() []	540 () []	() []	() []	440 () []		1.05倍							
合格者数	() []	216 () []	() []	239 () []	() []	() []	343 () []									
B 入学者数	() []	108 () []	() []	98 () []	() []	() []	112 () []									
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.08	-	0.98	-	-	1.12				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 報告年度に「春季入学以外の学期区分の設定を中止している場合は、「春季入学以外の学期区分」に「-」と「春季入学以外の学期区分」を記入してください。
 ・ (春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 ・ なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	108 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (-)	- [-] (-)	112 [-] (-)	- [-] (-)						
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	108 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (-)	- [-] (-)					
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	107 [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	108 [-] (-)	- [-] (-)	206 [-] (-)	- [-] (-)	317 [-] (-)	- [-] (-)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	108 人	1 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	0 人	修学意欲の低下(1名)
令和5年度	205 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	317 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		1 人		1 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には挿入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{108} = \boxed{0.92} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{205} = \boxed{0} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{317} = \boxed{0} \% \quad \text{数式が入力されています。}$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				重複・兼任	
			必修	選択	自由	目録外	准教授	講師	助教	助手		
I 金城アイデンティティ科目	① キリスト教	キリスト教 (1)	1前	2								兼1
		キリスト教 (2)	1後	2								兼1
		キリスト教 (3)	2前	2								兼1
		キリスト教 (4)	2後	2								兼1
		聖書の読み方	1・2後	2								兼1
		現代世界とキリスト教	1・2後	2								兼4
		医療とキリスト教精神	1・2前	2								兼1
		福祉とキリスト教	1・2前	2								兼1
		キリスト教文化入門	1・2後	2								兼1
		いのち・こころ	1・2後	2								兼1
	② 女性	聖書の女性観	1・2後	2								兼1
		歴史の中の女性	1・2前	2								兼1
		世界の女性問題	1・2前後	2								兼1
		福祉と女性	1・2後	2								兼1
		女性と文学	1・2前後	2								兼1
		男女共同参画社会	1・2前後	2								兼1
	③ 国際理解	性差の科学	1・2後	2								兼1
		世界の多様な文化	1・2前	2								兼9
		世界の社会問題	1・2前	2								兼1
		多文化共生社会	1・2前	2								兼1
	Topics in Comparative Culture	1・2前	2								兼7	
	Topics in Contemporary Japan	1・2後	2								兼6	
	異文化コミュニケーション	1・2前後	2								兼1	
II 金城コア科目	④ 英語教育科目	英語コミュニケーションA (1)	1前	1								兼4
		英語コミュニケーションA (2)	1後	1								兼4
		英語コミュニケーションE (1)	2前	1								兼1
		英語コミュニケーションE (2)	2後	1								兼1
		英語コミュニケーションF	2前	1								兼1
		英語コミュニケーションG	2後	1								兼1
	⑤ 外国語教育科目	ドイツ語 (1)	1前	1								兼1
		ドイツ語 (2)	1後	1								兼1
		ドイツ語 (3)	2前	1								兼1
		ドイツ語 (4)	2後	1								兼1
		ドイツ語会話 (1)	1前	1								兼1
		ドイツ語会話 (2)	1後	1								兼1
		ドイツ語会話 (3)	2前	1								兼1
		ドイツ語会話 (4)	2後	1								兼1
		フランス語 (1)	1前	1								兼1
		フランス語 (2)	1後	1								兼1
		フランス語 (3)	2前	1								兼1
		フランス語 (4)	2後	1								兼1
		フランス語会話 (1)	1前	1								兼1
		フランス語会話 (2)	1後	1								兼1
フランス語会話 (3)	2前	1								兼1		
フランス語会話 (4)	2後	1								兼1		
スペイン語 (1)	1前	1								兼1		
スペイン語 (2)	1後	1								兼1		
スペイン語 (3)	2前	1								兼1		
スペイン語 (4)	2後	1								兼1		
スペイン語会話 (1)	1前	1								兼1		
スペイン語会話 (2)	1後	1								兼1		
スペイン語会話 (3)	2前	1								兼1		
スペイン語会話 (4)	2後	1								兼1		
II 金城コア科目	⑤ 外国語教育科目	中国語 (1)	1前	1								兼1
		中国語 (2)	1後	1								兼1
		中国語 (3)	2前	1								兼1
		中国語 (4)	2後	1								兼1
		中国語会話 (1)	1前	1								兼1
		中国語会話 (2)	1後	1								兼1
		中国語会話 (3)	2前	1								兼1
		中国語会話 (4)	2後	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (1)	1前	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (2)	1後	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (3)	2前	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (4)	2後	1								兼1
		韓国・朝鮮語会話 (1)	1前	1								兼1
		韓国・朝鮮語会話 (2)	1後	1								兼1
韓国・朝鮮語会話 (3)	2前	1								兼1		
韓国・朝鮮語会話 (4)	2後	1								兼1		

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				重複・兼任	
			必修	選択	自由	目録外	准教授	講師	助教	助手		
I 金城アイデンティティ科目	① キリスト教	キリスト教 (1)	1前	2								兼1
		キリスト教 (2)	1後	2								兼1
		キリスト教 (3)	2前	2								兼1
		キリスト教 (4)	2後	2								兼1
		聖書の読み方	1・2後	2								兼1
		現代世界とキリスト教	1・2後	2								兼4
		医療とキリスト教精神	1・2前	2								兼1
		福祉とキリスト教	1・2前	2								兼1
		キリスト教文化入門	1・2後	2								兼1
		いのち・こころ	1・2後	2								兼1
	② 女性	聖書の女性観	1・2後	2								兼1
		歴史の中の女性	1・2前	2								兼1
		世界の女性問題	1・2前後	2								兼1
		福祉と女性	1・2後	2								兼1
		女性と文学	1・2前後	2								兼1
		男女共同参画社会	1・2前後	2								兼1
	③ 国際理解	性差の科学	1・2後	2								兼1
		世界の多様な文化	1・2前	2								兼9
		世界の社会問題	1・2前	2								兼1
		多文化共生社会	1・2前	2								兼1
	Topics in Comparative Culture	1・2前	2								兼7	
	Topics in Contemporary Japan	1・2後	2								兼6	
	異文化コミュニケーション	1・2前後	2								兼1	
II 金城コア科目	④ 英語教育科目	英語コミュニケーションA (1)	1前	1								兼4
		英語コミュニケーションA (2)	1後	1								兼4
		英語コミュニケーションE (1)	2前	1								兼1
		英語コミュニケーションE (2)	2後	1								兼1
		英語コミュニケーションF	2前	1								兼1
		英語コミュニケーションG	2後	1								兼1
	⑤ 外国語教育科目	ドイツ語 (1)	1前	1								兼1
		ドイツ語 (2)	1後	1								兼1
		ドイツ語 (3)	2前	1								兼1
		ドイツ語 (4)	2後	1								兼1
		ドイツ語会話 (1)	1前	1								兼1
		ドイツ語会話 (2)	1後	1								兼1
		ドイツ語会話 (3)	2前	1								兼1
		ドイツ語会話 (4)	2後	1								兼1
		フランス語 (1)	1前	1								兼1
		フランス語 (2)	1後	1								兼1
		フランス語 (3)	2前	1								兼1
		フランス語 (4)	2後	1								兼1
		フランス語会話 (1)	1前	1								兼1
		フランス語会話 (2)	1後	1								兼1
フランス語会話 (3)	2前	1								兼1		
フランス語会話 (4)	2後	1								兼1		
スペイン語 (1)	1前	1								兼1		
スペイン語 (2)	1後	1								兼1		
スペイン語 (3)	2前	1								兼1		
スペイン語 (4)	2後	1								兼1		
スペイン語会話 (1)	1前	1								兼1		
スペイン語会話 (2)	1後	1								兼1		
スペイン語会話 (3)	2前	1								兼1		
スペイン語会話 (4)	2後	1								兼1		
II 金城コア科目	⑤ 外国語教育科目	中国語 (1)	1前	1								兼1
		中国語 (2)	1後	1								兼1
		中国語 (3)	2前	1								兼1
		中国語 (4)	2後	1								兼1
		中国語会話 (1)	1前	1								兼1
		中国語会話 (2)	1後	1								兼1
		中国語会話 (3)	2前	1								兼1
		中国語会話 (4)	2後	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (1)	1前	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (2)	1後	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (3)	2前	1								兼1
		韓国・朝鮮語 (4)	2後	1								兼1
		韓国・朝鮮語会話 (1)	1前	1								兼1
		韓国・朝鮮語会話 (2)	1後	1								兼1
韓国・朝鮮語会話 (3)	2前	1								兼1		
韓国・朝鮮語会話 (4)	2後	1								兼1		

ト プ 科 目	K1IDSセンタープロジェクト	1・2通	2																		兼1	
	ボランティアプロジェクト	1・2通	2																			兼1
① 海 外 研 修 科 目	海外留学準備講座	1・2前	1																			兼1
小計 (157科目)		—	14	242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼97
専 門 教 育 科 目	基礎ゼミナール	1前	1			11	4	7														
	生命倫理	1前	1			1	1															兼1
シ ミ ヨ ン 語 英 語 科 目 コ レ キ ョ ウ	看護英語コミュニケーション (1)	2前	1																			兼5
	看護英語コミュニケーション (2)	3前	1																			兼5
	看護英語コミュニケーション (3)	4前	1																			兼5
専 門 基 礎 科 目	解剖生理学A (人体の構造)	1前	1			2																
	解剖生理学B (人体の機能)	1前	1			1																
	解剖生理学C (生殖・発達・加齢)	1後	1			2																
	生化学	1後	2																			兼1
健 康 障 害 と 治 療 論	病態生理学	1後	1			3																
	薬理学	2後	2																			兼1
	栄養学	1後	1																			兼1
	疾病・病態・治療論A (循環器・呼吸器・消化器)	2前	1			3																
	疾病・病態・治療論B (内分泌・腎・生殖器)	2前	1			3																
	疾病・病態・治療論C (血液・免疫・感染)	2前	1			3																
	疾病・病態・治療論D (精神・小児)	2後	1			3																
	疾病・病態・治療論E (運動器・神経・検査)	2後	1			3																
	臨床心理学 カウンセリング	2前 2前	1 1																			兼1 兼1
環 境 社 会 保 護 制 度 と 社 会	健康科学概論	1後	1			1																
	公衆衛生看護学概論	2前	2			1																
	社会保険論	2後	1			1																
	疫学	3前	2			1																
	保健統計学	1後	2			1																
	保健医療福祉行政論 (1)	3前	2			1																
	保健医療福祉行政論 (2)	4前	1			1																兼1
	家族社会学	1前	1			1																兼1
専 門 科 目	看護学概論	1前	2			1	1															
	看護理論と看護実践への活用	1前	1			1																
	看護過程論	2後	1			1	1			2												
	家族看護論	1後	1			1																
	看護倫理	1後	1			1																
	医療リスクマネジメント論	2前	1			1																
	基礎看護生活援助技術演習	1前	2			2	1			3												兼1
	基礎看護診療援助技術演習	1後	2			2	1			3												兼1
	看護コミュニケーション論	1前	1			1	1			2												兼1
	ヘルスアセスメント	2前	2			1	1			2												兼1
	基礎看護学実習 (1)	1前	1			1	1			2	6											6
	基礎看護学実習 (2)	2後	2			1	1			3	6											6
環 境 社 会 保 護 制 度 と 社 会	地域・在宅看護学概論	1後	2			1																
	地域包括ケア論	1後	1			1		1														
	地域・在宅看護援助論 (1)	2前	2			1		1	1													
	地域・在宅看護援助論 (2)	3前	1			1		1	1													
	地域・在宅看護学実習	3後	2			1		2	2	4												
	地域療養体験実習	1後	1			2		2	4	2												
環 境 社 会 保 護 制 度 と 社 会	グローバルヘルス看護学概論	2前	2			1																
	グローバルヘルス看護援助論	3前	1			1				1												兼1
専 門 教 育 科 目	成人看護学概論	2前	2			1																
	急性期看護援助論	2後	2			1	1	2	1													兼1
	慢性期看護援助論	2後	2			1		1	1													
	成人看護援助論	3前	1			1	1	2	2													
	急性期看護学実習	3後	3			1	1	1	1	1												
	慢性期看護学実習	3後	3			1	1	1	1	1												
専 門 科 目	小児看護学概論	2前	2			1																
	小児看護援助論 (1)	2後	1			1	1	1														
	小児看護援助論 (2)	3前	1			1	1	1														

ト プ 科 目	K1IDSセンタープロジェクト	1・2通	2																				兼1
	ボランティアプロジェクト	1・2通	2																				兼1
① 海 外 研 修 科 目	海外留学準備講座	1・2前	1																				兼1
小計 (157科目)		—	14	242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼98
専 門 教 育 科 目	基礎ゼミナール	1前	1			10	6	7															
	生命倫理	1前	1			1	1															兼1	
シ ミ ヨ ン 語 英 語 科 目 コ レ キ ョ ウ	看護英語コミュニケーション (1)	2前	1																			兼5	
	看護英語コミュニケーション (2)	3前	1																			兼5	
	看護英語コミュニケーション (3)	4前	1																			兼5	
専 門 基 礎 科 目	解剖生理学A (人体の構造)	1前	1			2																	
	解剖生理学B (人体の機能)	1前	1			1																	
	解剖生理学C (生殖・発達・加齢)	1後	1			2																	
	生化学	1後	2																			兼1	
健 康 障 害 と 治 療 論	病態生理学	1後	1			3																	
	薬理学	2後	2																			兼5	
	栄養学	1後	1																			兼1	
	疾病・病態・治療論A (循環器・呼吸器・消化器)	2前	1			3																	
	疾病・病態・治療論B (内分泌・腎・生殖器)	2前	1			3																	
	疾病・病態・治療論C (血液・免疫・感染)	2前	1			3																	
	疾病・病態・治療論D (精神・小児)	2後	1			3																	
	疾病・病態・治療論E (運動器・神経・検査)	2後	1			3																	
	臨床心理学 カウンセリング	2前 2前	1 1																			兼1 兼1	
環 境 社 会 保 護 制 度 と 社 会	健康科学概論	1後	1			1																	
	公衆衛生看護学概論	2前	2			1																	
	社会保険論	2後	1			1																	
	疫学	3前	2			1																	
	保健統計学	1後	2			1		</															

		単位取得状況(単位)										単位取得状況(単位)										
		3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
看護の統合と探究	精神看護学実習	3	後	2	1	1	1	1	1	1												
	災害看護論	3	前	1							1											
	感染症と社会	4	前		1						1											
	看護政策	4	後		1																	
	看護管理学	4	前		1						1											
	チーム医療論	4	前		1						2											
	総合実習	4	前	2							2	4	5	6	8							
	看護研究方法と看護実践への活用	3	前	1							2	3										
	原著講読	4	前		1																	
	卒業研究	4	通	2							10	6	7									
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学支援論A(母子・成人・高齢者保健)	2	後							2	1											
	公衆衛生看護学支援論B(精神・障害者・難病・感染症)	2	後							2	2											
	公衆衛生看護学支援論C(学校保健・産業保健)	3	前							1	1											
	公衆衛生看護学支援論D(地域診断・健康教育・地区組織活動)	3	前							2	1											
	公衆衛生看護学活動展開論A(個人・家族・集団への保健指導)	2	後							1	1											
	公衆衛生看護学活動展開論B(地域診断・健康教育の展開)	4	前							2	1											
	公衆衛生看護学活動展開論C(公衆衛生看護学活動の統合と展開)	4	後							1	1											
	公衆衛生看護学管理論A(看護管理活動・健康危機管理)	4	前							1	1											
	公衆衛生看護学管理論B(保健師活動の実践)	4	後							1	1											
	公衆衛生看護学実習(1)	4	後							3	1											
公衆衛生看護学実習(2)	4	後							2	1												
小計(89科目)			105	6	18	10	6	7	12	10											25	
合計(246科目)			119	248	18	10	6	7	12	10												116

		単位取得状況(単位)										単位取得状況(単位)										
		3	2	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1		
看護の統合と探究	精神看護学実習	3	後	2	1	1	1	1	1	1												
	災害看護論	3	前	1							1											
	感染症と社会	4	前		1						1											
	看護政策	4	後		1																	
	看護管理学	4	前		1						1											
	チーム医療論	4	前		1						2											
	総合実習	4	前	2							2	3	3	5	6	8						
	看護研究方法と看護実践への活用	3	前	1							3	2										
	原著講読	4	前		1																	
	卒業研究	4	通	2							11	4	7									
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学支援論A(母子・成人・高齢者保健)	2	後							2	1											
	公衆衛生看護学支援論B(精神・障害者・難病・感染症)	2	後							2	2											
	公衆衛生看護学支援論C(学校保健・産業保健)	3	前							1	1											
	公衆衛生看護学支援論D(地域診断・健康教育・地区組織活動)	3	前							2	1											
	公衆衛生看護学活動展開論A(個人・家族・集団への保健指導)	2	後							1	1											
	公衆衛生看護学活動展開論B(地域診断・健康教育の展開)	4	前							2	1											
	公衆衛生看護学活動展開論C(公衆衛生看護学活動の統合と展開)	4	後							1	1											
	公衆衛生看護学管理論A(看護管理活動・健康危機管理)	4	前							1	1											
	公衆衛生看護学管理論B(保健師活動の実践)	4	後							1	1											
	公衆衛生看護学実習(1)	4	後							3	1											
公衆衛生看護学実習(2)	4	後							2	1												
小計(89科目)			105	6	18	11	4	7	12	10											22	
合計(246科目)			119	248	18	11	4	7	12	10												116

【卒業要件及び履修方法】
 必修科目119単位、共通教育科目③国際理解のうち、「多文化共生社会」「異文化コミュニケーション」から2単位、⑤S&E教育科目の選択科目のうち、「スポーツ・アンド・エクササイズA～G」から1単位、前述の選択科目を除いた全ての共通教育科目から1単位以上、かつ、公衆衛生看護学分野を除く専門教育科目の選択科目から3単位以上を修得し、126単位以上修得すること。
 (履修科目の登録上限：49単位(年間))

【保健師国家試験受験資格を取得する場合の履修方法】
 上記の卒業要件上必修科目119単位および「保健医療福祉行政論(2)」1単位、公衆衛生看護学分野の18単位を必修、共通教育科目③国際理解のうち、「多文化共生社会」「異文化コミュニケーション」から2単位、⑤S&E教育科目の選択科目のうち、「スポーツ・アンド・エクササイズA～G」から1単位、前述の選択科目を除いた全ての共通教育科目から1単位以上、かつ、公衆衛生看護学分野を除く専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、144単位以上修得すること。

【卒業要件及び履修方法】
 必修科目119単位、共通教育科目③国際理解のうち、「多文化共生社会」「異文化コミュニケーション」から2単位、⑤S&E教育科目の選択科目のうち、「スポーツ・アンド・エクササイズA～G」から1単位、前述の選択科目を除いた全ての共通教育科目から1単位以上、かつ、公衆衛生看護学分野を除く専門教育科目の選択科目から3単位以上を修得し、126単位以上修得すること。
 (履修科目の登録上限：49単位(年間))

【保健師国家試験受験資格を取得する場合の履修方法】
 上記の卒業要件上必修科目119単位および「保健医療福祉行政論(2)」1単位、公衆衛生看護学分野の18単位を必修、共通教育科目③国際理解のうち、「多文化共生社会」「異文化コミュニケーション」から2単位、⑤S&E教育科目の選択科目のうち、「スポーツ・アンド・エクササイズA～G」から1単位、前述の選択科目を除いた全ての共通教育科目から1単位以上、かつ、公衆衛生看護学分野を除く専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、144単位以上修得すること。

(注) ①-②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・担当変更により、「情報リテラシー」の兼任・兼任の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・病気療養休暇取得中の教員と次年度以降の就任予定者がいるため、「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授8」、「准教授4」から「准教授3」、「講師7」から「講師5」に変更。
- ・病気療養休暇取得中の教員がいるため、「看護理論と看護実践への活用」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「兼0」から「兼1」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「基礎看護生活援助技術演習」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「基礎看護診療援助技術演習」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「基礎看護学実習(1)」の専任教員等の配置を「助教6」から「助教5」、「助手6」から「助手4」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「地域・在宅看護学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「兼0」から「兼1」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「地域包括ケア論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「兼0」から「兼1」に変更。
- ・次年度以降の就任予定者がいるため、「地域療養体験実習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」、「助教4」から「助教3」に変更。

【令和5年度】

- ・授業担当者変更により、「薬理学」の配置を「兼1」から「兼5」に変更。
- ・学生担当見直しのため、「基礎看護学実習(1)」の専任教員等の配置を「助手6」から「助手7」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「家族看護論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「成人看護学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「慢性期看護援助論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」、「准教授4」から「准教授5」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「慢性期看護学実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「統合実習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」、「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「看護研究方法と看護実践への活用」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」、「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・病気療養休暇の教員の辞退のため、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」、「准教授4」から「准教授5」に変更。

【令和6年度】

- ・「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授3」に変更。
- ・「薬理学」の兼任・兼任の配置を「兼1」から「兼5」に変更。
- ・「保健医療福祉行政論(1)」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・「看護理論と看護実践への活用」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手0」から「助手3」へ変更。
- ・「看護過程論」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・「家族看護論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・「基礎看護診療援助技術演習」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・「基礎看護学実習(1)」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」、「助教6」から「助教4」、「助手6」から「助手0」に変更。
- ・「基礎看護学実習(2)」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」、「助手6」から「助手0」に変更。
- ・「地域・在宅看護援助論(1)」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・「地域・在宅看護援助論(2)」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・「地域・在宅看護学実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」、「助手4」から「助手0」に変更。
- ・「地域療養体験実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教3」、「助手2」から「助手0」に変更。
- ・「グローバルヘルス看護学概論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手0」から「助手3」へ変更。
- ・「グローバルヘルス看護援助論」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」、「助手0」から「助手1」、「兼1」から「兼0」へ変更。
- ・「成人看護学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・「慢性期看護援助論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「兼1」から「兼0」に変更。
- ・「成人看護援助論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・「急性期看護学実習」の専任教員等の配置を「助手1」から「助手0」に変更。
- ・「慢性期看護学実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・「母性看護学実習」の専任教員等の配置を「助手1」から「助手0」に変更。
- ・「高齢者看護学実習」の専任教員等の配置を「助手1」から「助手0」に変更。
- ・「精神看護援助論(1)」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・「精神看護学実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・「看護研究方法と看護実践への活用」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」、「准教授2」から「准教授3」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
81 科目	154 科目	11 科目	246 科目	81 科目 []	154 科目 []	11 科目 []	246 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{246} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	125,513.44㎡	0㎡	0㎡	125,513.44㎡				
	運動場用地	22,120㎡	0㎡	0㎡	22,120㎡				
	小 計	147,633.44㎡	0㎡	0㎡	147,633.44㎡				
	そ の 他	116,886.25㎡	0㎡	0㎡	116,886.25㎡				
	合 計	264,519.69㎡	0㎡	0㎡	264,519.69㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	コロナ対策として暫定的に使用を継続していた旧校舎を解体するため面積減少(6)			
		80,906.30㎡ 86,422.9㎡ (80,906.30㎡) (-86,422.9㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	80,906.30㎡ 86,422.9㎡ (80,906.30㎡) (-86,422.9㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	70室	95室	138室	14室 (補助職員 0人)	4室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	看護学部 看護学科			39 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能なため、図書・学術雑誌・視聴覚資料については大学全体の数。	
	看護学部	535,929 [128,424] 531,173 [126,948] 524,868 [126,599] 520,985 [127,808] (535,929 [128,424]) (531,173 [126,948]) (524,868 [126,599]) (520,985 [127,808])	33,688 [24,268] 32,221 [23,434] 30,248 [21,689] 29,687 [21,624] (33,688 [24,268]) (32,221 [23,434]) (30,248 [21,689]) (29,687 [21,624])	25,995 [23,357] 24,144 [22,553] 22,173 [20,780] 22,112 [20,719] (25,995 [23,357]) (24,144 [22,553]) (22,173 [20,780]) (22,112 [20,719])	15,030 15,032 14,902 14,597 (15,030) (15,032) (14,902) (14,597)	6,318 (6,318)	36 (36)	共用図書及び看護学専門 図書の増加に伴う変更(4) 共用図書及び看護学専門 図書の増加に伴う変更(5) 共用図書及び看護学専門 図書の増加、資料除却に 伴う変更(6)	
	計	535,929 [128,424] 531,173 [126,948] 524,868 [126,599] 520,985 [127,808] (535,929 [128,424]) (531,173 [126,948]) (524,868 [126,599]) (520,985 [127,808])	33,688 [24,268] 32,221 [23,434] 30,248 [21,689] 29,687 [21,624] (33,688 [24,268]) (32,221 [23,434]) (30,248 [21,689]) (29,687 [21,624])	25,995 [23,357] 24,144 [22,553] 22,173 [20,780] 22,112 [20,719] (25,995 [23,357]) (24,144 [22,553]) (22,173 [20,780]) (22,112 [20,719])	15,030 15,032 14,902 14,597 (15,030) (15,032) (14,902) (14,597)	6,318 (6,318)	36 (36)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	6,194.41㎡		566		560,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	5,705.91㎡		テニスコート6面、バレーコート4面、ゴルフ練習場1面						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持 方法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は大学全体、学術奨励寄付と受託研究を含む。図書費については電子ジャーナル・データベース整備費(運用コスト含む)を含む 他学部との調整による図書・設備購入費の増額に伴う変更(4)
		教員1人当り研究費等	360千円	360千円	図書購入費	0千円	12,800千円 12,200千円	7,100千円 5,000千円	
	共同研究費等	18,500千円	18,500千円	設備購入費	322,000千円	7,000千円 5,500千円	7,000千円 5,500千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,900千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		なし							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に**赤字で記入**してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称		金城学院大学					収容定員充足率 0.7倍以下の 学科数	2	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数			
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度			
文学部	4	285	-	1140	-	0.79	-	-	昭和24	愛知県名古屋 市守山区大森二 丁目1723番地		
日本語日本文学科	4	70	-	280	学士 (日本語日本文 化学)	1.08	-	-	昭和29	同上		
英語英米文化学科	4	90	-	360	学士 (英語英米文化 学)	0.78	-	-	昭和24	同上		
外国語コミュニケーション学科	4	80	-	320	学士 (外国語コミュ ニケーション 学)	0.55	-	-	平成9	同上		
音楽芸術学科	4	45	-	180	学士 (音楽芸術 学)	0.80	-	-	平成25	同上		
生活環境学部	4	230	-	920	-	1.06	-	-	昭和37			
生活マネジメント学科	4	70	-	280	学士 (生活環境 学)	0.90	-	-	平成4	同上		
環境デザイン学科	4	80	-	320	学士 (生活環境 学)	1.06	-	-	平成14	同上		
食環境栄養学科	4	80	-	320	学士 (生活環境 学)	1.05	-	-	平成14	同上		
国際情報学部	4	170	-	700	-	0.88	-	-	平成24	同上		
国際情報学科	4	170	3年次 10	700	学士 (国際情報 学)	0.88	-	-	平成24	同上		
グローバルスタディーズコース	4	85	3年次 5	350	-	0.75	-	-	平成24			
メディアスタディーズコース	4	85	3年次 5	350	-	1.00	-	-	平成24			
人間科学部	4	305	-	1250	-	0.89	-	-	平成14	同上		
現代子ども教育学科	4	120	3年次 5	490	学士 (人間科学)	0.88	-	-	平成14	同上		
多元心理学科	4	110	3年次 5	450	学士 (人間科学)	1.10	-	-	平成23	同上		
コミュニティ福祉学科	4	75	3年次 5	310	学士 (コミュニティ 福祉学)	0.60	-	-	平成24	同上		
薬学部	6	150	-	900	-	1.02	-	-	平成17	同上		
薬学科	6	150	-	900	学士 (薬学)	1.02	-	-	平成17	同上		
看護学部	4	100	-	400	-	1.05	-	-	令和4	同上		
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.05	-	-	令和4	同上		
大学全体		1240	3年次 25	5310	-	-	-	-	-	-		

(注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】		【令和5年度】		【令和6年度】	
氏名 (姓 名) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (姓 名) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (姓 名) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名
阿部(安井) 恵子 (61) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 担当授業科目名 基礎ゼミナール 看護理論 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 看護コミュニケーション論 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習(1) 基礎看護学実習(2) チーム医療論 卒業課題 卒業研究	阿部(安井) 恵子 (61) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 担当授業科目名 基礎ゼミナール 看護理論 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 看護コミュニケーション論 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習(1) 基礎看護学実習(2) チーム医療論 卒業課題 卒業研究	阿部(安井) 恵子 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 担当授業科目名 基礎ゼミナール 看護理論 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 看護コミュニケーション論 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習(1) 基礎看護学実習(2) チーム医療論 卒業課題 卒業研究
飯嶋 茂子 (61) <令和5年4月> 修士(人間関係学)	専 教授 基礎ゼミナール 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論 地域・在宅看護援助論(1) 地域・在宅看護援助論(2) 地域・在宅看護学実習 地域看護実践実習 卒業研究	飯嶋 茂子 (60) <令和4年4月> 修士(人間関係学)	専 教授 基礎ゼミナール 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論 地域・在宅看護援助論(1) 地域・在宅看護援助論(2) 地域・在宅看護学実習 地域看護実践実習 卒業研究	飯嶋 茂子 (62) <令和5年4月> 修士(人間関係学)	専 教授 基礎ゼミナール 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論 地域・在宅看護援助論(1) 地域・在宅看護援助論(2) 地域・在宅看護学実習 地域看護実践実習 卒業研究
飯嶋 茂子 (60) <令和4年4月> 修士(人間関係学)	兼任 講師 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論	飯嶋 茂子 (59) <令和4年4月> 修士(人間関係学)	兼任 講師 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論	飯嶋 茂子 (60) <令和4年4月> 修士(人間関係学)	兼任 講師 地域・在宅看護学概論 地域包括ケア論
市川 誠一 (72) <令和4年4月> 医学博士	専 教授 基礎ゼミナール 疫学 疫学統計学 感染症と社会 卒業研究 公衆衛生看護支援論B(精神、障害者、難病、感染症)	市川 誠一 (72) <令和4年4月> 医学博士	専 教授 基礎ゼミナール 疫学 疫学統計学 感染症と社会 卒業研究 公衆衛生看護支援論B(精神、障害者、難病、感染症)	市川 誠一 (73) <令和4年4月> 医学博士	専 教授 基礎ゼミナール 疫学 疫学統計学 感染症と社会 卒業研究 公衆衛生看護支援論B(精神、障害者、難病、感染症)
上杉 裕子 (58) <令和4年4月> 博士(看護学)	専 教授 基礎ゼミナール 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 グローバルヘルス看護学概論 グローバルヘルス看護援助論 看護管理学 看護研究方法及看護実践への活用 卒業課題 卒業研究	上杉 裕子 (58) <令和4年4月> 博士(看護学)	専 教授 基礎ゼミナール 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 グローバルヘルス看護学概論 グローバルヘルス看護援助論 看護管理学 看護研究方法及看護実践への活用 卒業課題 卒業研究	上杉 裕子 (59) <令和4年4月> 博士(看護学)	専 教授 基礎ゼミナール 基礎看護生活援助技術演習 基礎看護診療援助技術演習 グローバルヘルス看護学概論 グローバルヘルス看護援助論 看護管理学 看護研究方法及看護実践への活用 卒業課題 卒業研究
加藤 裕子 (64) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) チーム医療論 卒業研究	加藤 裕子 (64) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) チーム医療論 卒業研究	加藤 裕子 (65) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) チーム医療論 卒業研究
飯見 聡 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学B(人体の機能) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 健康科学概論 社会科学概論 卒業研究	飯見 聡 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学B(人体の機能) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 健康科学概論 社会科学概論 卒業研究	飯見 聡 (63) <令和4年4月> 博士(医学)	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学B(人体の機能) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 健康科学概論 社会科学概論 卒業研究
福田 裕子 (58) <令和5年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 地域看護実践実習 高齢者看護学概論 高齢者看護援助論(1) 高齢者看護援助論(2) 高齢者看護学実習 看護研究方法及看護実践への活用 卒業研究	福田 裕子 (57) <令和5年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 地域看護実践実習 高齢者看護学概論 高齢者看護援助論(1) 高齢者看護援助論(2) 高齢者看護学実習 看護研究方法及看護実践への活用 卒業研究	福田 裕子 (58) <令和5年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 地域看護実践実習 高齢者看護学概論 高齢者看護援助論(1) 高齢者看護援助論(2) 高齢者看護学実習 看護研究方法及看護実践への活用 卒業研究
Mohamed Hamed Hussein Saleh (48) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 卒業研究	Mohamed Hamed Hussein Saleh (48) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 卒業研究	Mohamed Hamed Hussein Saleh (49) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 解剖生理学A(人体の構造) 解剖生理学C(生体・発達・加齢) 病態生理学 疾病・病態・治療A(循環器・呼吸器・消化器) 疾病・病態・治療B(内分泌・腎・生殖器) 疾病・病態・治療C(血液・免疫・感染) 疾病・病態・治療D(精神・小児) 疾病・病態・治療E(運動器・神経・検査) 卒業研究
松浦 利江子 (57) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 生命倫理 看護倫理 精神看護学概論 精神看護援助論(1) 精神看護援助論(2) 精神看護学実習 総合実習 卒業研究	松浦 利江子 (57) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 生命倫理 看護倫理 精神看護学概論 精神看護援助論(1) 精神看護援助論(2) 精神看護学実習 総合実習 卒業研究	松浦 利江子 (58) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 生命倫理 看護倫理 精神看護学概論 精神看護援助論(1) 精神看護援助論(2) 精神看護学実習 総合実習 卒業研究
山口 裕香枝 (46) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 公衆衛生看護学概論 卒業研究 公衆衛生看護支援論A(母子・成人・高齢者保護) 公衆衛生看護支援論B(精神・障害者・難病・感染症) 公衆衛生看護支援論C(学校保健・産業保健) 公衆衛生看護支援論D(地域診断・健康教育・地区総括活動) 公衆衛生看護支援論E(個人・家庭・集団への保健指導) 公衆衛生看護活動援助論B(地域診断・健康教育の展開) 公衆衛生看護活動援助論C(公衆衛生看護活動の社会と展開) 公衆衛生看護管理論A(看護管理活動・健康危機管理) 公衆衛生看護管理論B(保健師活動の実践) 公衆衛生看護学実習(1) 公衆衛生看護学実習(2)	山口 裕香枝 (46) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 公衆衛生看護学概論 卒業研究 公衆衛生看護支援論A(母子・成人・高齢者保護) 公衆衛生看護支援論B(精神・障害者・難病・感染症) 公衆衛生看護支援論C(学校保健・産業保健) 公衆衛生看護支援論D(地域診断・健康教育・地区総括活動) 公衆衛生看護支援論E(個人・家庭・集団への保健指導) 公衆衛生看護活動援助論B(地域診断・健康教育の展開) 公衆衛生看護活動援助論C(公衆衛生看護活動の社会と展開) 公衆衛生看護管理論A(看護管理活動・健康危機管理) 公衆衛生看護管理論B(保健師活動の実践) 公衆衛生看護学実習(1) 公衆衛生看護学実習(2)	山口 裕香枝 (47) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 公衆衛生看護学概論 卒業研究 公衆衛生看護支援論A(母子・成人・高齢者保護) 公衆衛生看護支援論B(精神・障害者・難病・感染症) 公衆衛生看護支援論C(学校保健・産業保健) 公衆衛生看護支援論D(地域診断・健康教育・地区総括活動) 公衆衛生看護支援論E(個人・家庭・集団への保健指導) 公衆衛生看護活動援助論B(地域診断・健康教育の展開) 公衆衛生看護活動援助論C(公衆衛生看護活動の社会と展開) 公衆衛生看護管理論A(看護管理活動・健康危機管理) 公衆衛生看護管理論B(保健師活動の実践) 公衆衛生看護学実習(1) 公衆衛生看護学実習(2)
山手 真和 (48) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 看護理論と看護実践への活用 家族看護論 成人看護学概論 慢性期看護援助論 成人看護援助論 慢性期看護学実習	山手 真和 (48) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 看護理論と看護実践への活用 家族看護論 成人看護学概論 慢性期看護援助論 成人看護援助論 慢性期看護学実習	山手 真和 (49) <令和4年4月>	専 教授 基礎ゼミナール 看護理論と看護実践への活用 家族看護論 成人看護学概論 慢性期看護援助論 成人看護援助論 慢性期看護学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		込谷 いづみ (58) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)	兼任 講師		込谷 いづみ (58) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)	兼任 講師		込谷 いづみ (58) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)
兼任 講師		工山 真子 (64) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)	兼任 講師		工山 真子 (62) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)	兼任 講師		工山 真子 (63) <令和7年4月>	公衆衛生看護管理論 A (看護管理活動・健康危機管理)
								兼任 講師		山田 真樹 (83) <令和6年4月>	看護管理活動 看護管理活動 看護管理活動 ヘルスケアセミナー
								兼任 講師		大友 真子 (67) <令和6年4月>	精神看護論(2)
兼任 講師		BASTIAN, Joycelyn A. (56) <令和4年4月>	看護英語コミュニケーション (1) 看護英語コミュニケーション (2) 看護英語コミュニケーション (3) 英語コミュニケーションA (1)	兼任 講師		BASTIAN, Joycelyn A. (57) <令和4年4月>	看護英語コミュニケーション (1) 看護英語コミュニケーション (2) 看護英語コミュニケーション (3) 英語コミュニケーションA (1)	兼任 講師		BASTIAN, Joycelyn A. (58) <令和4年4月>	看護英語コミュニケーション (1) 看護英語コミュニケーション (2) 看護英語コミュニケーション (3) 英語コミュニケーションA (1)
兼任 講師		吉野 真一 (66) <令和4年4月>	芸術・音楽D	兼任 講師		吉野 真一 (66) <令和4年4月>	芸術・音楽D	兼任 講師		吉野 真一 (68) <令和4年4月>	芸術・音楽D
兼任 講師		梅本 美二 (64) <令和4年4月>	スペイン語 (1) スペイン語 (2) スペイン語 (3)	兼任 講師		梅本 美二 (65) <令和4年4月>	スペイン語 (1) スペイン語 (2) スペイン語 (3)	兼任 講師		梅本 美二 (66) <令和4年4月>	スペイン語 (1) スペイン語 (2) スペイン語 (3)
兼任 講師		NAVAS, Rafael E. (58) <令和4年4月>	スペイン語(1) スペイン語(2) スペイン語(3)	兼任 講師		NAVAS, Rafael E. (58) <令和4年4月>	スペイン語(1) スペイン語(2) スペイン語(3)	兼任 講師		NAVAS, Rafael E. (60) <令和4年4月>	スペイン語(1) スペイン語(2) スペイン語(3)
兼任 講師		柳澤 雅美 (64) <令和4年4月>	歴史の中の女性	兼任 講師		柳澤 雅美 (65) <令和4年4月>	歴史の中の女性	兼任 講師		柳澤 雅美 (66) <令和4年4月>	歴史の中の女性
兼任 講師		金 光雄 (67) <令和4年4月>	平和学	兼任 講師		金 光雄 (67) <令和4年4月>	平和学 韓国・朝鮮語(1) 韓国・朝鮮語(2)	兼任 講師		金 光雄 (68) <令和4年4月>	平和学 韓国・朝鮮語(1) 韓国・朝鮮語(2)
兼任 講師		吉澤 基和 (62) <令和4年4月>	名古屋学	兼任 講師		吉澤 基和 (63) <令和4年4月>	名古屋学	兼任 講師		吉澤 基和 (64) <令和4年4月>	名古屋学
兼任 講師		簡井 草苗 (48) <令和4年4月>	地域研究 A	兼任 講師		簡井 草苗 (48) <令和4年4月>	地域研究 A	兼任 講師		簡井 草苗 (49) <令和4年4月>	地域研究 A
兼任 講師		乙部 由子 (51) <令和4年4月>	世界の女性問題 男女共同参画社会	兼任 講師		乙部 由子 (51) <令和4年4月>	世界の女性問題 男女共同参画社会	兼任 講師		乙部 由子 (52) <令和4年4月>	世界の女性問題 男女共同参画社会
兼任 講師		金 芝恵 (51) <令和4年4月>	韓国・朝鮮語 (1) 韓国・朝鮮語 (2) 韓国・朝鮮語 (3) 韓国・朝鮮語 (4) 韓国・朝鮮語(1) 韓国・朝鮮語(2)	兼任 講師		金 芝恵 (51) <令和4年4月>	韓国・朝鮮語 (1) 韓国・朝鮮語 (2) 韓国・朝鮮語 (3) 韓国・朝鮮語 (4) 韓国・朝鮮語(1) 韓国・朝鮮語(2)	兼任 講師		金 芝恵 (52) <令和4年4月>	韓国・朝鮮語 (1) 韓国・朝鮮語 (2) 韓国・朝鮮語 (3) 韓国・朝鮮語 (4) 韓国・朝鮮語(1) 韓国・朝鮮語(2)
兼任 講師		下村 武 (46) <令和4年4月>	世界の社会問題 史学C 地域研究C	兼任 講師		下村 武 (46) <令和4年4月>	世界の社会問題 史学C 地域研究C	兼任 講師		下村 武 (47) <令和4年4月>	世界の社会問題 史学C 地域研究C
兼任 講師		大倉 莉成 (56) <令和4年4月>	健康科学	兼任 講師		大倉 莉成 (56) <令和4年4月>	健康科学	兼任 講師		大倉 莉成 (57) <令和4年4月>	健康科学
兼任 講師		中島 高保子 (46) <令和4年4月>	心理学B	兼任 講師		中島 高保子 (46) <令和4年4月>	心理学B	兼任 講師		伊藤 愛華子 (38) <令和6年4月>	世界の社会問題
兼任 講師		武藤 真次代 (54) <令和4年4月>	ロジカルシンキング	兼任 講師		武藤 真次代 (54) <令和4年4月>	ロジカルシンキング	兼任 講師		武藤 真次代 (55) <令和4年4月>	ロジカルシンキング
兼任 講師		福澤 真希 (39) <令和4年4月>	日本語表現	兼任 講師		福澤 真希 (39) <令和4年4月>	日本語表現	兼任 講師		村瀬 真実 (60) <令和6年4月>	ロジカルシンキング
兼任 講師		井上 研 (43) <令和4年4月>	哲学B	兼任 講師		井上 研 (43) <令和4年4月>	哲学B	兼任 講師		井上 研 (44) <令和4年4月>	哲学B
兼任 講師		大高 義穂 (56) <令和4年4月>	日本語学	兼任 講師		大高 義穂 (56) <令和4年4月>	日本語学	兼任 講師		大高 義穂 (57) <令和4年4月>	日本語学
兼任 講師		深谷 克典 (66) <令和4年4月>	芸術・美術B	兼任 講師		深谷 克典 (66) <令和4年4月>	芸術・美術B	兼任 講師		深谷 克典 (67) <令和4年4月>	芸術・美術B
兼任 講師		松本 彩月 (42) <令和4年4月>	福祉と女性	兼任 講師		松本 彩月 (42) <令和4年4月>	福祉と女性	兼任 講師		松本 彩月 (43) <令和4年4月>	福祉と女性
兼任 講師		藤井 和紀 (30) <令和4年4月>	学校と教育の歴史	兼任 講師		藤井 和紀 (30) <令和4年4月>	学校と教育の歴史	兼任 講師		藤井 和紀 (31) <令和4年4月>	学校と教育の歴史
兼任 講師		中村 麗葉 (41) <令和4年4月>	芸術・美術A	兼任 講師		中村 麗葉 (41) <令和4年4月>	芸術・美術A	兼任 講師		中村 麗葉 (42) <令和4年4月>	芸術・美術A
兼任 講師		遠野 幸治 (61) <令和4年4月>	いのち・こころ	兼任 講師		遠野 幸治 (61) <令和4年4月>	いのち・こころ	兼任 講師		遠野 幸治 (62) <令和4年4月>	いのち・こころ
兼任 講師		山本 晴菜 (33) <令和4年4月>	地理	兼任 講師		山本 晴菜 (34) <令和4年4月>	地理	兼任 講師		山本 晴菜 (35) <令和4年4月>	地理
専任 講師		賀茂 遼子 (58) <令和4年4月>		専任 講師		賀茂 遼子 (59) <令和4年4月>		専任 講師		賀茂 遼子 (60) <令和4年4月>	

専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
				兼任 講師	菊地 隆 守 (26) <令和5年4月> 学校と教育の歴史	兼任 講師	菊地 隆 守 (27) <令和5年4月>
				兼任 講師	宮崎 浩太郎 (25) <令和5年4月> IT活用A	兼任 講師	宮崎 浩太郎 (28) <令和5年4月>
						兼任 講師	藤 橋 (60) <令和5年4月> 経営学B
						兼任 講師	藤 橋 基 (28) <令和5年4月> 心理学C
						兼任 講師	PESTAWO, Jason I. (44) <令和5年4月> 言語英語コミュニケーション(1) 言語英語コミュニケーション(2)

- (注)
- ・ 報告年度の6月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 既出申請書又は既出申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 『既出申請書又は既出申請書』には 既出申請書又は既出申請書の教員名で(兼任・兼任教員を含む。)多量字で記入してください。
 - ・ 平の上で **既出申請書又は既出申請書から変更となっている情報は赤字の表示を必ずしてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年数は、**それぞれの年度の6月1日時点の年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実外)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・山手 美和の病氣療養により、「看護理論と看護実践への活用」の担当者を「山手 美和」から「足立 はる奈」に変更。
- ・改姓により、「森 智子」の表記を「清水 智子」に変更。
- ・担当者変更により、「生化学」「栄養学」の担当者を「丸山 智美」から「岸 和廣」に変更し、「丸山 智美」の就任年度を「令和4年」から「令和7年」に変更。
- ・担当者変更により、「地域研究D」の担当者を「王(藤原) 文亮」から「王 榮」に変更。
- ・担当者変更により、「情報リテラシー」の担当者を「西尾 吉男」から「鈴木 華実」「姚 静雅」に変更。
- ・担当者変更により、「女性と文学」の担当者を「小松 史生子」から「藤田 祐史」に変更。
- ・担当者変更により、「スポーツ・アンド・エクササイズC」の担当者を「高橋 和文」から「鈴木 正隆」に変更。
- ・担当者変更により、「政治学」の担当者を「太田 正登」から「鈴木 豊彦」に変更。
- ・担当者変更により、「社会学A」の担当者を「大山(高山) 小夜」から「亀井 美穂」に変更。
- ・担当者変更により、「女性みらい」の担当者を「渡辺(鈴木) 恭子」から「宇佐美 桃子」に変更。
- ・担当者変更により、オムニバス科目「Topics in Contemporary Japan」の担当者から「高野 祐二」「小田 節子」を削除。
- ・担当者変更により、「情報学」の担当者を「岩崎 公弥子」から「属 芸豪」に変更。
- ・担当者変更により、「中国語(1)」「中国語(2)」の担当者を「浅井 邦昭」から「榎原 真理子」に変更。
- ・担当者変更により、「聖書の読み方」の担当者を「小室 尚子」から「吉松 純」に変更。
- ・担当者変更により、「宗教学」の担当者を「小室 尚子」から「落合 建仁」に変更。
- ・担当者変更により、「英語コミュニケーションA(2)」の担当者から「PALLER, Daniel L.」を削除。
- ・担当者変更により、「フランス語会話(1)」「フランス語会話(2)」の担当者を「北原(廣田) ルミ」から「VURPILLOT, Xavier」に変更。
- ・担当者変更により、「海外留学準備講座」の担当者を「北原(廣田) ルミ」から「金指 加代子」に変更。
- ・昇任により、「畠山 正人」の職名を「准教授」から「教授」に変更。
- ・担当者変更により、「IT活用E」の担当者を「遠藤 潤一」から「加藤 智也」に変更。
- ・担当者変更により、「IT活用F」の担当者を「遠藤 潤一」から「岡川 卓詩」に変更。
- ・担当者変更により、「フランス語(1)」「フランス語(2)」の担当者を「松井 裕史」から「落合 理恵子」に変更し、「松井 裕史」の就任年度を「令和4年」から「令和5年」に変更。
- ・担当者変更により、「ドイツ語(1)」「ドイツ語(2)」の担当者を「STRALA, Jan Gerrit」から「鈴木 久嗣」に変更。
- ・担当者変更により、「生活科学A」の担当者を「平野(竹内) 可奈」から「浅野 友美」に変更。
- ・担当者変更により、「統計科学」の担当者を「前川 由未子」から「小坂 清文」に変更。
- ・担当者変更により、「韓国・朝鮮語会話(1)」「韓国・朝鮮語会話(2)」の担当者を「金 芝恵」から「金 光旭」に変更。
- ・担当者変更により、「日本語学」の担当者を「大西 美穂」から「長谷部 亜子」に変更。
- ・担当者変更により、「芸術・美術A」の担当者を「中村 夏葉」から「朝日 美砂子」に変更。

【令和5年度】

- ・山手 美和の就任辞退により、「看護理論と看護実践への活用」の担当者を「山手 美和」から「上杉 裕子」に変更。
- ・山手 美和の就任辞退により、「基礎ゼミナール」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「家族看護論」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「成人看護学概論」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「成人看護援助論」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「慢性期看護学実習」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「慢性期看護援助論」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「統合実習」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「看護研究方法と看護実践への活用」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・山手 美和の就任辞退により、「卒業研究」の担当者を「山手 美和」から「加藤 亜妃子」に変更。令和4年11月教員審査済
- ・担当者変更により、「薬理学」の担当者を「永津 明人」から「福石 信之」「安東 嗣修」「坂梨 まゆ子」「衣斐 智和」「西川 真衣」に変更。
- ・担当者変更により、「臨床心理学」の担当者を「川瀬 正裕」から「宇佐美 桃子」に変更。
- ・担当者変更により、「カウンセリング」の担当者を「川瀬 正裕」から「宇佐美 桃子」に変更。
- ・担当者変更により、「衣生活学B」の担当者を「青山 喜久子」から「長崎 直子」に変更。
- ・担当者変更により、「スポーツ・アンド・エクササイズB」の担当者を「高橋 和文」から「鈴木 正隆」に変更。
- ・担当者変更により、「看護英語コミュニケーション(1)」の担当者を「丹羽 卓」「TAYLOR, Matthew A.」「HUSTON, Adam D.」から「HIGA, James」「GABRID, Erwin F.」「HANSON-LYNN, Sara M.」に変更。
- ・担当者変更により、「史学C」の担当者を「下村 武」から「遠藤 美加」に変更。
- ・担当者変更により、「平和学」の担当者を「金 光旭」から「鈴木 豊彦」に変更。
- ・担当者変更により、「経営学A」の担当者を「小室 達章」から「畠山 正人」に変更。
- ・担当者変更により、「心理学B」の担当者を「中島 奈保子」から「平間 真由子」に変更。
- ・担当者変更により、「生活科学A」の担当者を「浅野 友美」から「猪飼 誉友」に変更。
- ・担当者変更により、「食生活学」の担当者を「澤田 均」から「石田 淳子」に変更。
- ・担当者変更により、「教職入門」の担当者を「長谷川 元洋」から「山川 晃史」に変更。
- ・担当者変更により、「学校と教育の歴史」の担当者を「藤井 利紀」から「菊地原 守」に変更。
- ・担当者変更により、「IT活用A」の担当者を「西尾 吉男」から「宮崎 琳太郎」に変更。
- ・担当者変更により、「地域研究D」の担当者を「王 榮」から「李 澤元」に変更。
- ・昇任により、「STRALA, Jan Gerrit」の職名を「准教授」から「教授」に変更。
- ・昇任により、「末宗(浦田) 達行」の職名を「講師」から「准教授」に変更。
- ・昇任により、「竹内 徹」の職名を「講師」から「准教授」に変更。

【令和6年度】

- ・田中希代子の退職により、「基礎看護生活援助技術演習」の担当者を「田中希代子」から「出原 弥和」に変更。
- ・田中希代子の退職により、「基礎看護診療援助技術演習」の担当者から「田中希代子」を削除
- ・田中希代子の退職により、「看護コミュニケーション論」の担当者を「田中希代子」から「出原 弥和」に変更。
- ・田中希代子の退職により、「ヘルスアセスメント」の担当者を「田中希代子」から「出原 弥和」に変更。
- ・田中希代子の退職により、「基礎看護学実習(1)」の担当者から「田中希代子」を削除
- ・田中希代子の退職により、「基礎看護学実習(2)」の担当者から「田中希代子」を削除
- ・福嶋美貴の退職により、「基礎看護学実習(1)」の担当者から「福嶋美貴」を削除
- ・福嶋美貴の退職により、「精神看護援助論(1)」の担当者から「福嶋美貴」を削除
- ・福嶋美貴の退職により、「精神看護援助論(2)」の担当者を「福嶋美貴」から「大永 慶子」に変更。
- ・福嶋美貴の退職により、「精神看護学実習」の担当者から「福嶋美貴」を削除
- ・福嶋美貴の退職により、「統合実習」の担当者から「福嶋美貴」を削除
- ・福田愛子の退職により、「地域・在宅看護援助論(1)」の担当者を「福田愛子」から「福田 裕一」に変更 令和6年2月教員審査済
- ・福田愛子の退職により、「地域・在宅看護援助論(2)」の担当者を「福田愛子」から「福田 裕一」に変更 令和6年2月教員審査済
- ・福田愛子の退職により、「地域・在宅看護学実習」の担当者を「福田愛子」から「福田 裕一」に変更 令和6年2月教員審査済
- ・福田愛子の退職により、「地域療養体験実習」の担当者を「福田愛子」から「福田 裕一」に変更 令和6年2月教員審査済
- ・担当者変更により、「情報リテラシー」の担当者を「鈴木 華実」から「梶田 瑠依」に変更。
- ・担当者変更により、「情報リテラシー」の担当者を「姚 静雅」から「岡川 卓詩」に変更。
- ・担当者変更により、「看護英語コミュニケーション(1)」の担当者を「HANSON-LYNN, Sara M.」から「PESTANO, Jason I.」に変更。
- ・担当者変更により、「看護英語コミュニケーション(2)」の担当者を「丹羽 卓」から「HIGA, James」に変更。
- ・担当者変更により、「看護英語コミュニケーション(2)」の担当者を「TAYLOR, Matthew A.」から「PESTANO, Jason I.」に変更。
- ・担当者変更により、「看護英語コミュニケーション(2)」の担当者を「HUSTON, Adam D.」から「GABRID, Erwin F.」に変更。
- ・担当者変更により、「英語コミュニケーションA(1)」の担当者を「HUSTON, Adam D.」から「PHARIS, Andrew C.」に変更。
- ・担当者変更により、「英語コミュニケーションA(2)」の担当者を「HUSTON, Adam D.」から「PHARIS, Andrew C.」に変更。
- ・担当者変更により、「英語コミュニケーションA(1)」の担当者を「HANSON-LYNN, Sara M.」から「SMITH Frazer J.」に変更。
- ・担当者変更により、「英語コミュニケーションA(2)」の担当者を「HANSON-LYNN, Sara M.」から「HIGA, James」に変更。
- ・担当者変更により、「世界の社会問題」の担当者を「下村 武」から「伊奈 友梨子」に変更。
- ・担当者変更により、「経営学B」の担当者を「畠山 正人」から「趙 偉」に変更。
- ・担当者変更により、「平和学」の担当者を「鈴木 豊彦」から「加藤 紗織」に変更。
- ・担当者変更により、「芸術・美術B」の担当者を「深谷 克典」から「坪野 雅彦」に変更。
- ・担当者変更により、「Topics in Contemporary Japan」の担当者を「太田 正登」から「BASTIAN, Joycelyn A.」に変更。
- ・担当者変更により、「心理学C」の担当者を「二村 彩」から「榎原 美」に変更。
- ・担当者変更により、「ロジカルシンキング」の担当者を「武藤 貴久代」から「村瀬 寛美」に変更。
- ・担当者変更により、「統計科学」の担当者を「小坂 清文」から「前川 由未子」に変更。
- ・昇任により、「落合建仁」の職名を「准教授」から「教授」に変更。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ **既に設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。**原則としてA/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ A/C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	6
12	
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
11	4	7	12	34	10	10	5	7	10	32	8
(9)	(3)	(5)	(8)	(25)	(4)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
10	5	7	12	34	10	10	5	7	12	34	10
[▲1]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]	[▲1]	[1]	[-]	[-]	[-]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
68	1	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{34}{34} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{32} = \boxed{3.12} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	山手 美和	R4.2 R4.9	必修	基礎ゼミナール	①	R4.2病気療養休暇取得のため未就任（4） R4.2病気療養休暇取得後退職のため未就任（5）						
				必修	看護理論と看護実践への活用	②①							
				必修	家族看護論	①							
				必修	成人看護学概論	①							
				必修	慢性期看護援助論	①							
				必修	成人看護援助論	①							
				必修	慢性期看護学実習	①							
				必修	統合実習	①							
				必修	看護研究方法と看護実践への活用	①							
				必修	卒業研究	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	助教	田中希代子	R6.3	必修	看護コミュニケーション論	②	担当者都合により辞任（2023年度）						
				必修	ヘルスアセスメント	②							
				必修	基礎看護診療援助技術演習	③							
				必修	基礎看護生活援助技術演習	②							
				必修	基礎看護学実習（1）	③							
				必修	基礎看護学実習（2）	③							
2	助教	福嶋美貴	R6.3	必修	精神看護援助論（1）	③	担当者都合により辞任（2023年度）						
				必修	精神看護学実習	③							
				必修	精神看護援助論（2）	②							
				必修	統合実習	③							
				必修	基礎看護学実習（1）	③							
3	助教	福田愛子	R6.3	必修	地域・在宅看護援助論（1）	①	担当者都合により辞任（2023年度）						
				必修	地域・在宅看護援助論（2）	①							
				必修	地域・在宅看護学実習	①							
				必修	地域療養体験実習	①							
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
3	人	必修	15	科目	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	7	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	4	科目	計	4	科目	計	7	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)										
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)						
4	人	必修	25	科目	必修	14	科目	必修	4	科目	必修	7	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	25	科目	計	14	科目	計	4	科目	計	7	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{34} = 11.76 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

3 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ **令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。**

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

担当者が減ったことによって学生への教育効果に影響が生じることが想定される科目については、AC教員審査により適格と判定を受けた専任教員を配置する。教員補充が授業開始に間に合わない場合は例外的に教務委員会および教授会で履歴・業績等を審議して了承された非常勤講師を配置して対応するが、可能な限りすみやかに後任候補者のAC教員審査を受審し専任教員の補充を行う。なお、授業運営上、複数担当者科目などで他の専任教員で対応可能な科目については、新たに教員を補充せず対応する。

学生への周知はシラバスや在学生オリエンテーション等で周知をしている。
今後も学生への影響が出ることが想定される場合は、すみやかに教員補充等によって対応する。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 124単位 必修科目〇〇単位、選択科目〇〇単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 (〇㎡) b 自習室〇室 (〇㎡) c 図書〇〇冊	① 学生の専門性をより高めるため、必修科目(1科目・2単位)を追加。(別添〇「新旧対象表」参照) ② 学生の修学環境を改善するため、講義室、自習室をそれぞれ〇部屋(〇㎡)増やすとともに、図書も〇〇冊増書した。

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・大学FD委員会 教育、研究、管理運営、社会貢献等、教員が関わる全ての領域にかかる能力開発に関する諸活動を行い、学部・研究科FD活動と連携し、活動状況の検証及び改善を行うことを目的に「大学FD委員会」を設置している。 ・看護学部FD委員会 看護学部では、大学FD委員会と連携するため、看護学部FD委員会を設け、その目的を看護学部のFDに関する諸活動を統括し、教員の教育と研究能力を高めることとしている。 b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ・大学FD委員会 大学FD委員会は、学長、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長及び学長補佐を構成員とし、都度開催し、令和5年度は6回開催している。毎回ほぼ全員が出席している。 ・看護学部FD委員会 看護学部FD委員会は、学部長、学科主任(委員長)および専任教員3名を構成員とし、都度開催している。令和5年は4月に開催し、年間計画、FD研修会の開催時期、開催回数、研修テーマを検討し、都合8回開催している。構成委員は全員参加している。 c 委員会の審議事項等 ・大学FD委員会 (1) 大学FD活動の基本方針の提案及び年度課題の提示 (2) 大学FDに関する調査、研究 (3) 大学FDに関する研究会・ワークショップの開催 (4) 各学部・研究科のFD活動の検証 (5) 学生による授業評価の実施及び実績の検証 (6) 教員の教育環境、研究環境の検証 (7) その他、第2条の目的に照らして必要と本委員会が判断すること

・看護学部FD委員会

- (1) カリキュラムの検討及び改善のための提案
- (2) 授業の内容、方法、シラバスの検討及び改善のための提案
- (3) FDに関する研究会・セミナー・ワークショップの開催
- (4) FDに関する調査、研究及び改善のための提案
- (5) 教員等の研究成果の検討及び改善のための提案
- (6) 教員等の研究環境の検討及び改善のための提案
- (7) その他、第2条の目的に照らして必要と判断されること。
- (8) FD研修会のまとめ及び次年度への検討課題

② 実施状況

a 実施内容

大学FD委員会

- ・大学FD研修会「3ポリシーに基づく大学教育のあり方について」
- ・2023年度人を対象とする研究に関する研修（全教員・助教・関係職員対象）
- ・「ソーシャルメディア利用に関する研修会」
- ・2023年度 教育に関する学科別協議会
「4年間にわたる学修成果を測る指標について検討する」
- ・2023年度PROGテスト全体傾向報告会
- ・Instagram研修会をFD・SD活動の一環として開催
- ・教員相互の授業参観
- ・新任教員のための研修会 等

看護学部FD委員会

・看護学部FD研修会

以下のテーマで2回の研修会を企画した。

- 1) 行動変容のためのヘルスキューション
- 2) カリキュラムと臨地実習指導

・教育に関する学科別協議会

卒業に関する科目のルーブリック作成に向けて

・学生による授業評価（アンケート）

2023年度は大学のルールに則り、前期の科目担当者が1科目を選択して授業評価アンケートを実施した。後期科目に関しては看護学部独自ですべての科目（演習・実習を含む）のアンケートを実施した。

b 実施方法

大学FD委員会

・FD交流集会（FD講演会）

全学教員を対象に「3ポリシーに基づく大学教育のあり方について」をテーマに実施した。

・教育に関する学科別協議会における統一テーマによる議論

令和5年度は各学科で「卒業に関する科目のルーブリック」について、学科内でその結果を検証し、改善・向上につなげる という共通テーマで実施した。

・全学教職員を対象に「ソーシャルメディア利用に関する研修会」をテーマに実施された。当日の研修会の模様は、大学のクラウド型教育支援システムにアップされ、いつでも視聴可能な環境が整えられた。

・「2023年度PROGテスト全体傾向報告会」で大学全体の学生の傾向についての解説がなされ、その後、各学部別で説明会が開催された。

・学生による授業評価（アンケート）

2023年度は前期科目について、それぞれの教員の開講授業の中から1科目を評価対象として実施した。2024年度は後期科目について実施する予定である。

看護学部FD委員会

・看護学部FD研修会

テーマは教員への希望調査をベースに看護学部FD委員会が決定し、次の2回の研修会を全教員対象に実施した。

- 1) 行動変容のためのヘルスキューンケーション（外部講師による対面研修会）
- 2) カリキュラムと臨地実習指導（外部講師による対面研修会）

・教育に関する学科別協議会

卒業に関する科目のルーブリック作成に向けて

第1部 既存の評価指標の確認、第2部 本学の各D.P. に向けてのルーブリック作成のグループワークと共有

c 開催状況（教員の参加状況含む）

大学FD委員会

・FD交流集会（FD講演会）

2023年度は、FD交流集会「人を対象とする研究の倫理に関する講演会」を開催、2024年1月30日、全教員を対象に対面で行われた。

・教育に関する学科別協議会における統一テーマによる議論

2023年度は統一テーマ「卒業に関する科目のルーブリック」を設定し、夏期休暇期間に全学科が原則全教員参加として、教育に関する学科別協議会を開催した。学科別協議会実施後に各学部学科から報告を集約した。

看護学部FD委員会

・FD研修会

- 1) テーマ:行動変容のためのヘルスキューンケーション 2023年9月4日開催、学部教員39名
- 2) テーマ:カリキュラムと臨地実習指導 臨地実習指導における基礎的確認事項、指導計画作成のプロセス、指導案の効果的運用について講演 2023年11月15日開催、学部教員 30名

・教育に関する学科別協議会

2023年度は各学科で「卒業に関する科目のルーブリック」について、夏季休暇期間に原則、全教員参加にて対面を実施した。2023年9月4日(月)13:20~16:35に開催、前半は3ポリシーの確認をし、後半は各グループにて本学D.P. に向けてのルーブリック作成をした後、学部教員で共有をした。学部参加教員39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

上記の実施内容を踏まえて、学部の各委員会（教務委員会、看護実践教育委員会、ICT教育委員会、学生生活委員会等）および大学FD委員会、学部教授会、学科会議が、授業改善や学生への教育指導方法の改善に向けた教員の資質向上について検討していくこととしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

2023年度は前期科目について、5/22（月）～5/30（火）に実施した。

後期科目については専門教育科目の全科目について、2024年1/9（火）～1/29（月）実施、また、実習科目については2/16（金）～3/8（金）の期間にて実習終了学生より実施した。

2024年度は昨年度同様、前後期に実習科目を含めた全科目を実施予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートは、WEBアンケートであるが、授業時間内に回答時間を設け実施した。各科目ごとに集計した結果に対し、担当教員に提示し、授業改善に反映する。また、担当教員より改善点や課題を集約し、学生に対しては、学生ポータルサイトに掲載した。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

(設置)

第1条 金城学院大学（以下「本学」という。）に大学FD委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本学全体のFD（Faculty Development）（以下「大学FD」という。）に関する諸活動を行い、学部・研究科FD活動と連携し、活動状況の検証及び改善を行うための助言をすることを目的とする。

2 この規程における大学FDとは、教育、研究、管理運営、社会貢献等、教員が関わる全ての領域にかかる能力開発を言う。

(構成)

第3条 第3条 本委員会は、学長、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、及び学長補佐のうち学長が指名する1名で構成する。

2 本委員会委員の任期は、各役職者の任期とする。

(委員長)

第4条 本委員会の委員長は、学長をもってあてる。

2 委員長は、本委員会を招集し、議長を務める。

(小委員会)

第5条 本委員会は、必要に応じて各種の小委員会を置くことができる。

(陪席)

第6条 本委員会が必要と認めるときは、構成員以外の教職員を陪席させることができる。

(活動)

第7条 本委員会は、第2条の目的を達成するために、以下の活動を行なう。

- (1) 大学FD活動の基本方針の提案及び年度課題の提示
- (2) 大学FDに関する調査、研究
- (3) 大学FDに関する研究会・ワークショップの開催
- (4) 各学部・研究科のFD活動の検証
- (5) 学生による授業評価の実施及び実績の検証
- (6) 教員の教育環境、研究環境の検証
- (7) その他、第2条の目的に照らして必要と本委員会が判断すること

(助言)

第8条 本委員会が大学FD活動について改善が必要であると判断した場合は、関係する部署の長に助言をすることができる。

2 前項の助言を受けた部署の長は、できる限り速やかに活動の改善に努め、その状況を本委員会に適宜報告しなければならない。

(所掌事務)

第9条 本委員会に関する事務は、大学運営推進課がこれを行う。

(施行細則)

第10条 この規程の施行に必要な細則は、別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、大学評議会の審議に基づき、常任理事会の議決を経てこれを行う。

附 則（2012年3月12日常任理事会）

この規程は、2012年4月1日から施行する。

附 則（2023年3月6日常任理事会）

この規程は、2023年4月1日から施行する。

(根拠)

第1条 この規程は、金城学院大学看護学部教授会規程第12条第2項に基づき、看護学部FD委員会（以下「本委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本委員会は、看護学部（以下「本学部」という。）のFD（Faculty Development）に関する諸活動を統括し、教員、助教及び看護学部助手（以下「教員等」という。）の教育と研究能力を高めることを目的とする。

(構成)

第3条 本委員会は、学部長、学科主任および本学部運営委員会から推薦された専任教員3名、計5名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 運営委員会推薦の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 本委員会に委員長を置き、学科主任がその任に就く。

2 委員長は、委員会を招集し、議長を務める。

(活動)

第6条 本委員会は、第2条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) カリキュラムの検討及び改善のための提案
- (2) 授業の内容、方法、シラバスの検討及び改善のための提案
- (3) FDに関する研究会・セミナー・ワークショップの開催
- (4) FDに関する調査、研究及び改善のための提案
- (5) 教員等の研究成果の検討及び改善のための提案
- (6) 教員等の研究環境の検討及び改善のための提案
- (7) その他、第2条の目的に照らして必要と判断されること。

(陪席者)

第7条 本委員会が必要と認めるときは、構成員以外の関係教職員を陪席させることができる。

(所掌事務)

第8条 本委員会に関する事務は、本学部事務室がこれを行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議決を経て、これを行う。

附 則 (2022年4月13日看護学部教授会)

この規程は、2022年4月13日から施行する。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

少子超高齢化、疾病構造の変化、ライフスタイルの変化、独居世帯や老老世帯の増加、在留外国人の増加、グローバル化による人々の社会・文化的背景、生活習慣・生活様式、価値観の多様化、災害への対応等、これらの要素が複雑に絡み合い、あらゆる人々・地域を対象とした看護ケアの充実を図ることの重要性が高まっている。このような背景を踏まえ、福音主義のキリスト教に基づく金城学院大学は看護学部看護学科を設置し、建学の精神である「世界の平和と人類の福祉に貢献する女性の養成」を継承し、教育スローガンである「強く、優しく。」を基盤とする看護学教育を行い、看護を求める人々にとって最善の利益となる看護ケアを提供することのできる、看護師、保健師を社会に送り出すこととした。

看護学部看護学科は、「豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備え、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることができる看護職者を養成する。」ことを目的としている。

看護学部開設初年度においては教育課程を設置計画通り実施し、開設2年目になって設置計画の教員全員が着任し、1年次、2年次の教育課程を実施し、設置の趣旨・目的の達成の実現に努めている。

なお、自己点検・評価については以下の体制で行っていく。

・金城学院大学内部質保証推進会議

金城学院大学では、学則第2条に基づき、金城学院大学内部質保証推進会議を置き、教育・研究、組織・運営、施設・設備の状況について、恒常的に点検・評価し、改善・向上を進める質保証の取組みを行うことを目的としている。本会議の構成員は、学長、副学長、学部長、大学院研究科長、教務部長、学生部長、学長補佐、図書館長、大学宗教主事、国際交流センター長、マルチメディアセンター長、言語センター長、IR室長、大学事務部の部長（部次長）であり、規程の目的の達成に全学的に取り組んでいる。

・金城学院大学教育課程編成会議

教学マネジメントの取組みを推進することを目的とする。教学マネジメントとは、本学の教育目的を達成するために行う管理運営であり、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づく体系的・組織的な教育を展開し、その成果の点検・評価を行い、恒常的に改善・向上を進める質保証の取組みである。本会議の構成員は、学長、副学長、学部長、大学院研究科長、教務部長、学長補佐、IR室長、大学事務部の部長（部次長）であり、規程の目的の達成に全学的に取り組んでいる。

・看護学部自己評価委員会

看護学部は、開設した2022年度は、設置の趣旨・目的の達成状況に関する自己点検評価作業に向けて、全学の内部質保証推進会議を踏まえ、看護学部自己評価委員会を発足させた。その構成員は、学部長、学科主任、教務委員長、学生生活委員長、入試委員長、大学評議会評議員の体制とした。本委員会では以下のことを行う。

- (1) 本学部の教育・研究活動や組織に関する自己点検・評価の実施
- (2) 本学部の自己点検・評価に関する活動目標及び活動報告の作成
- (3) 自己点検・評価の結果、改善が必要とされる事柄について、本学部関係組織に対する改善を指示
- (4) その他、本委員会が必要と認める事項

2022年度は、大学の内部質保証推進会議や教育課程編成会議などで行われている自己点検作業に連携し、2023年度～2024年度の看護学部の活動・報告を提示した。

教学事項にかかる看護学部の活動計画は、以下のとおりである。

- ①学科のDPに対応したルーブリックを作成し、各学年での情報収集をもとに、4年間の変化を把握する評価体制を目指す。
- ②2022年度に続き看護学部設置計画を履行し、4年にわたる設置計画を達成することを目標とする（2023～2024年度）。
- ③2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する（2023-2024年度）。

2023年度は年度計画をほぼ達成したことを報告し、2024年度計画を提示した。

今後、学部設置の趣旨・目的についての達成状況を評価するため、アセスメントポリシー策定などを検討する。完成年度に向けて、設置の趣旨・目的の達成を目指す。

・看護学部設置計画履行に関する委員会

看護学部設置計画について、確認事項、修正・変更事項等が生じた場合の対応を検討し、必要に応じて文部科学省に確認を行うこととしている。構成員は、学部長、学科主任、教務委員長、教員2名、および大学事務部、履修支援センター、看護学部事務から各1名である。

2023年度は、退職教員の後任確保としてAC教員審査に向けた審議、臨地実習関連施設に関する審議などを行い、教育の質を保つことに努めた。

・設置計画履行調査ワーキング

2023年度から看護学部の授業評価調査の実施や履行状況を把握する。看護学部教務委員会のワーキング組織とし、看護学部FD委員会、看護学部自己評価委員会と連携して活動する。

2023年度は、看護学部設置計画履行カリキュラム確認会議を11回開催し、領域代表によってカリキュラムが設置計画通りに履行されているかを確認した。

② 自己点検・評価報告書

看護学部の自己・点検評価については、完成年度を迎えるまでは大学内部質保証推進会議に基づいて行い、学部の自己点検・評価報告書は完成年度から1年後に作成し公表する予定である。なお、看護学部を含む全学の自己点検評価報告書は毎年度作成し公表する。

a 公表（予定）時期

・令和6年5月末 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

本学は、令和3年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（機関別認証評価）を受審し、認定を受けた。看護学部を含む大学評価は、令和9年度に取りまとめ、令和10年度に受審の予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。